



JCHO

さいたま北部医療センター 広報誌

Saitama Northern Medical Center

健康 だより

第35号

北区自治会連合会協賛回覧

INDEX

① 鼠経ヘルニアについて

外科医長 木村 和孝

② ふれあい看護体験・職場体験

看護師長 堀上 知子

副看護部長 西田 久美

③ HOKUBUのなかみ

④ 公開講座のご案内

腎臓病・糖尿病教室のお知らせ

⑤ シリーズ健康生活 薬剤部

「安全な手術のために
「お薬とサプリメントの確認をお願いします」

薬剤師 医薬品情報管理室長

山森 真由美



そけい

鼠経ヘルニアについて



外科医長 木村 和孝

私は2024年にさいたま北部医療センターに医長として
着任いたしました。着任以来、消化器^{しょうかきあくせいしゅよう}悪性腫瘍に対する
腹腔鏡^{ふくくうきょうかしゅじゅつ}手術、虫垂炎^{ちゅうすいえん}、各種ヘルニアなどの良性疾病に対
する腹腔鏡下手術を中心に手術を施行しております。

今回、高齢患者さんに多く認められる鼠経ヘルニアにつ
いて解説させていただきます。鼠経ヘルニアは生命を直ち
に脅かす疾患ではありませんが、生活の質に大きく影響す
る重要な疾患です。

●鼠経ヘルニアとは？

鼠経ヘルニアは、お腹の中の臓器の一部が鼠径部^{ふくへき}（太も
もの付け根）で腹壁（内臓が入っている腹腔を取り囲む壁）
から脱出する状態です。一般的に、腸が最も多く脱出する
ため脱腸^{だつちよう}と呼ばれることもありますが、脂肪^{しろうまく}や漿膜（お腹
の一番外側をおおう膜）が脱出することもあります。鼠経
部の症状（しこり、痛み、腫れやふくらみ、しびれなど）やお
腹に力を入れたとき・立ち上がったときに症状悪化などが
見られた場合にはヘルニアの可能性が高いです。

●治療

鼠経ヘルニアは、基本的には手術以外の方法では治療
できません。ヘルニア嵌頓^{かんどん}（腸が脱出して戻れなくなる状
態、さらに時間の経過で腸管の血流障害を起こす可能性
があります）を生じた場合には緊急手術や腸切除が必要に
なることがあります。嵌頓が発生する前に手術で治療する
ことが重要です。

複数の手術方法がありますが、当院では基本的に腹腔鏡
下ヘルニア修復術（TAPP法）を施行しております。腹膜前腔
にシート状のメッシュを敷くことで鼠径部の内・外鼠経ヘル
ニア、大腿ヘルニアの3つ全てをカバーすることができます。

ただし、腹腔鏡には気腹（CO2送気で視野を確保する）が必
要となるため、心肺機能が低下している患者さんにおいては
施行できない可能性があります。その場合には、鼠径部に4～
5cm程度の切開をする前方アプローチのダイレクトワゲル
法（シート状のメッシュを腹膜前腔に敷きます）を施行します。

また、前立腺手術後などは、シート状のメッシュを敷くた
めのスペースが確保できないため、メッシュプラグ法（傘状
のメッシュ）など、内・外鼠経ヘルニアの二つをカバーする従
来の手術方法が必要となる場合もあります。

患者さんの状態、基礎疾患、既往歴、手術歴等を総合的
に考慮し、オーダーメイドで一人一人に適した手術方法を
選択しております。

●緊急手術の指標

▶ヘルニア嵌頓^{かんどん}

・お腹の張り・嘔吐などの腸閉塞症状、患部の赤み・硬い
腫れ・押すと強い痛みがある時などは緊急性が高い可能
性があります。

●入院日数

施設によっては日帰り手術や翌日退院も可能ですが、十
分な疼痛管理を行なっても90%以上の患者さんが、
翌日の一人での歩行等に不安や疼痛を訴える傾向にあり
ます。術後2日目には、ほとんどの患者さんが「これなら家

に帰っても大丈夫かな」と自宅退院が可能であると判断されます。そのため、当院では術後2日目退院を前提とした入院計画をしております。

●退院後の生活

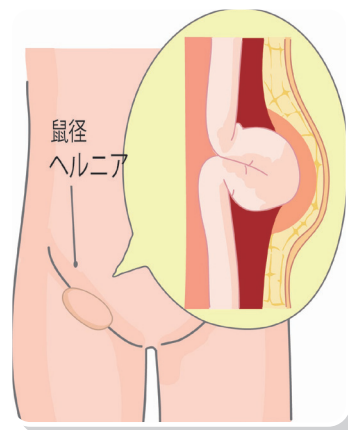
- ・消毒は特に必要ありませんが、自宅では1週間は湯船は避けていただきシャワー洗浄が勧められます。
- ・術後1ヶ月間は、重い荷物の搬送やゴルフ等のひねりのある作業は避けるようお願いしております。

●フォローアップ

術後は定期的な外来診察を行い、再発の兆候や合併症の有無を確認いたします。通常、術後2週間目と1ヶ月目にフォローアップを行い、終了となります。

●まとめ

鼠径ヘルニアは一般的な外科良性疾患ですが、早期の診断と適切な治療が重要です。具体的な症状やご質問がございましたら、お気軽にご受診ください。



外科診療案内

当院外科は、原則として各種診療ガイドラインやエビデンスに基づき、患者さんやご家族に丁寧で分かり易い説明を行い、十分にご理解と納得の下に治療を行うよう心掛けています。手術に関しては、大腸がん、早期胃がん、胆石症・胆のう炎、虫垂炎、鼠径ヘルニアなどに対して腹腔鏡手術を行っています。また、緊急手術を要するような腹部救急疾患も可能な限り受け入れるよう努めております。悪性疾患に対しては、手術のみならず抗がん剤をはじめとした各種薬物療法や緩和的治療にも力を入れています。

- ・大腸がんに関しては、塩川が担当しております。月曜日もしくは水曜日の午前中の診察となります。
- ・乳腺疾患に関しては、神宮が担当しております。火曜日もしくは木曜日の午前中の診察となります。
- ・診察は午前中のみです(急患は随時受け入れ可)。



	月	火	水	木	金
午前	塩川	神宮	塩川	神宮	木村
	植松	富田	木村	山崎	富田



ふれあい看護体験 職場体験開催報告

学生さん
いらっしがい!



★ふれあい看護体験

看護師長 堀上 知子

ふれあい看護体験は、埼玉県看護協会の事業として、看護の仕事を実際に見て体験し看護への理解を深めるイベントです。健康や看護に関心を持っておられる一般の方に、病院内見学や看護ケア体験をしていただき、看護職を志す方にとって貴重な体験の場となります。今年は、7月27日28日の2日間で計19名の高校生が当院にいらっしやいました。当日は、病棟での看護ケアや内視鏡室・手術室見学、血圧測定や車いす・ストレッチャー移動体験を行いました。参加された方からは、「他の病院では経験できなかった体験

ができて感動した」「看護師になりたい気持ちが強くなった」などの感想がきかれました。

当院看護部は、地域住民に信頼されるために、誠実で確かな看護ケア、思いやりのある温かな看護ケアが実践できる人材の育成に取り組んでいます。医療や看護師について知っていただき、将来専門職を選ぶきっかけになることを願っています。毎年開催されますので、ご興味のある方は当院ホームページをご確認ください。



ストレッチャー移動体験



血圧測定

★職場体験

副看護部長 西田 久美

2026年7月23日に、大宮開成中学・高等学校の中学2年生13名を対象に職場体験を行いました。この取り組みは、「医療職への理解を深め、将来の医療人を目指すきっかけにしたい」という学校からの思いから実現した取り組みです。当日は、普段は入れない臨床検査室や手術室などを巡る院内見学ツアーを実施しました。生徒たちは最新機器や緊張感のある現場を真剣なまなざしで興味深く見つめていました。

また、医師・看護師・薬剤師・放射線技師の4グループに分かれて専門職とのディスカッションも行いました。「仕事のやりがいはいは?」「なぜこの職業を選んだのか?」など、熱心な質問が飛び交い、現場のスタッフも自身の体験を交えて熱く答えていました。

医療現場では、多様な専門職が一丸となって患者さんを支える「多職種連携」が不可欠です。今回の体験が、医療の道を目指す一歩となれば幸いです。



透析室



リハビリテーション室



放射線科

H O K U B U の

当院の「な」仲間「か」環境「み」魅力について、
各部署・院内の様子などを中心に紹介します！

Vol.
14

リハビリテーション科

Rehabilitation
Medicine

NA

KA

MI

な か み

● Q1 リハビリテーション科ってどんなところ？

病気やケガ、手術などによって「立つ・歩く・手を動かす」といった日常の動作が難しくなった方に対し、身体の機能回復とご自宅への復帰をお手伝いする診療科です。当センターでは、入院後すぐの早期からリハビリを開始し、土曜日(隔週)も含めて途切れのないトレーニングを実施しています。

医師や看護師、リハビリの専門スタッフがチームを組み、患者さんお一人おひとりの目標に合わせた丁寧なサポートを行っています。安心して自分らしい生活を取り戻していただけるよう、安全で温かみのあるケアを心がけています。



場所は
3階です



広々とした自慢の
リハビリ室です！

エアロバイクも
充実



ゆっくり上げて
筋力 UP



● Q2 どのような疾患のリハビリテーションを行っていますか？

心臓や血管の病気(心不全などの心血管疾患)。骨折や筋肉・関節の病気(整形外科などの運動器疾患)、肺炎や呼吸器などの肺の病気、脳卒中などの脳や神経の病気まで、幅広い疾患に対応しています。特に、発症後や手術直後の早い段階からリスク管理をしながら安全に体を動かし始める「早期リハビリテーション」に力を入れています。また、心臓のリハビリテーションにも積極的に取り組んでおり、体力の回復だけでなく、再発予防や日常生活へのスムーズな復帰を目指したトレーニングを行っています。

患者さんの状態に合わせて専門スタッフが適切に対応いたします。

● Q3 仕事で大切にしていることは？

患者さんが安心して治療に専念できるよう、「安全で迅速な対応」と「温かいコミュニケーション」を大切にしています。スタッフ間の連携はもちろん、患者さんやご家族の思いに寄り添い、共に歩むリハビリを目指しています。

日々知識や技術の研鑽に努めながら、みなさまの「また歩きたい」「自分らしく暮らしたい」という思いを全力で応援いたします。



公開講座のご案内

当院では植竹地区社会福祉協議会と共催して年6回程度公開講座を開催しています。講師は医師若しくは医療職が担当し、主に診療科毎の病気・予防・当院での治療方針など約30分～1時間程度かけて話します。

公開講座は当院の会議室で行いますが、近隣の公民館に出向くこともあります。

前回は9月1日(火)に外科の富田医師が「鼠経ヘルニアについて」の講座を開催しました。

【次回開催日時】2026年10月16日(金)15:00～16:00

【内容】泌尿器科疾患と当院の泌尿器科治療について

【講師】泌尿器科 黒川 学

【会場】当院3階大会議室

参加を希望される方は植竹地区社会福祉協議会まで連絡をお願いします。

TEL:048-654-2022

公開講座は期間限定ではありますが、当院のホームページから動画を視聴することもできます。

下記URL及びQRコードから興味のある方は是非ご視聴ください。

URL:<https://saitamahokubu.jcho.go.jp/video/>



腎臓病・糖尿病教室のお知らせ

JCHOさいたま北部医療センターでは、2カ月に1度、腎臓内科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士による腎臓病・糖尿病教室を行っています。

教室の趣旨

最新の疫学研究では、日本人の65歳以上の高齢者の4人に1人、75歳以上に絞ると3人に1人が慢性腎臓病に該当するといわれておりますが、無症状のまま見過ごされているケースも少なくありません。

また、慢性腎臓病の患者さんの多くはほかの疾患を患っている高齢患者さんです。

慢性腎臓病は早期発見と早期からの治療が重要になります。治療内容は、原因疾患の管理、生活習慣の改善(減塩、禁煙、運動療法)および薬物療法が柱となります。

その一環として、各専門のスタッフによる講義で腎臓病や糖尿病の治療や日常で実践できる予防について、皆さんに知っていただくことを目的に当教室を開催しています。

先日行われた内容の一部をご紹介します

5月27日の教室では、「慢性腎臓病のお話 ～健やか腎臓ライフを目指して～」というタイトルで講義が行われました。この講義では、腎臓内科医師である戸田美波先生より、イラストや表、グラフなどをスクリーンに映しながら、慢性腎臓病についてご説明いただき、講義終了後には、講義を受けた方々からたくさんの質問があり、とても賑わった教室となりました。



参加要件 参加費無料、事前の申し込みは不要ですので直接お越しください

開催場所 1階 正面玄関ロビー

▶ 開催予定

日にち	担当者	タイトル
2026年11月18日(水)	看護師 松山 良子	腎臓病・糖尿病の合併症について
2027年 1月21日(木)	薬剤師 高橋 理子	腎臓病・糖尿病の薬とその注意点
2027年 3月10日(水)	理学療法士 伊藤 剛男	内科疾患に対する運動について

次回は11月18日(水)14:30～15:30を予定しております。

ロビーのソファでお気軽にお聴きください。たくさんのご参加をお待ちしています。

詳細につきましては、ホームページや院内掲示物でお知らせしておりますのでご覧ください。





20 安全な手術のために ～お薬とサプリメントの確認をお願いします～

手術を安全に受けていただくためには、現在服用しているお薬やサプリメントについて、医療スタッフが正確に把握することが大切です。薬の中には、手術中の出血を増やしたり、麻酔の効果に影響したりするものがあり、手術前に一時的な中止（休薬）や調整が必要になる場合があります。自己判断で薬を中止すると、病気の悪化や思わぬ合併症につながることもあるため、必ず医師や薬剤師の指示に従いましょう。

手術前に特に注意が必要な薬には、血液をサラサラにする薬、糖尿病の薬、骨粗しょう症や女性ホルモン関連の薬などがあります。また、サプリメントや健康食品も手術に影響することがあるため注意が必要です。

主な薬の種類と注意点

薬の種類	主な薬剤例	注意する理由
血液をサラサラにする薬 (抗血小板薬・抗凝固薬)	アスピリン、ワーファリンなど	手術中や手術後の出血が止まりにくくなるため
糖尿病の薬	インスリン、GLP-1受容体作動薬、SGLT2阻害薬、メトホルミンなど	低血糖や脱水、麻酔時の合併症を防ぐため
骨粗しょう症・女性ホルモン関連の薬	一部の骨粗しょう症治療薬、女性ホルモン剤など	術後の血栓症などのリスクに配慮するため
サプリメント・健康食品	ビタミンE、DHA・EPA、セント・ジョーンズ・ワートなど	血液の固まり方や麻酔の作用に影響することがあるため

血液をサラサラにする薬は、脳梗塞や心筋梗塞などの予防に重要な役割を果たしています。しかし、これらの薬を服用したまま手術を受けると、出血が増える可能性があります。そのため、手術前から一定期間休薬することがあります。休薬期間は手術の種類や薬ごとに異なるため、医療スタッフの指示を守ることが重要です。

糖尿病の薬も特に注意が必要です。手術当日は絶食となることが多く、普段と同じように薬を使用すると低血糖を起こす危険があります。また、SGLT2阻害薬は脱水や重篤な副作用を防ぐため、手術の3～4日前から休薬が必要となる場合があります。メトホルミンも、乳酸アシドーシスという重い副作用を予防するため、手術前に中止することがあります。インスリンやGLP-1受容体作動薬についても、手術内容に合わせて使用量や投与方法を調整します。

さらに、一部の骨粗しょう症治療薬や女性ホルモン剤は、術後の血栓症リスクを考慮して休薬が検討されることがあります。服用中の方は自己判断せず、必ず主治医へご相談ください。

サプリメントや健康食品についても忘れずに申告しましょう。ビタミンEやDHA・EPA、セント・ジョーンズ・ワートなどは、出血しやすくなったり麻酔薬の作用に影響したりする可能性があります。「健康食品だから大丈夫」と考えず、日頃使用しているものをすべて伝えることが大切です。

安全な手術のためには、患者さんと医療スタッフが情報を共有することが欠かせません。受診時には「お薬手帳」を持参し、処方薬だけでなく市販薬やサプリメントも含めて正確に伝えましょう。皆さまのご協力が、安全で安心な手術につながります。

【発行】JCHOさいたま北部医療センター TEL.048-663-1671(代表)／平日(月曜～金曜)8:30～17:00

〒331-8625 埼玉県さいたま市北区宮原町1丁目851

受診をご検討されている方のお問い合わせは、各診療科受付におつなぎいたします。

※8:30～9:00頃と、15:00～16:30頃はお問い合わせが多く、電話がつながりにくい可能性がございますので、ご了承ください。

(HP) <https://saitamahokubu.jcho.go.jp>

QRコードから、
ホームページをご覧ください

